

禁 転 載 複 製
当 日 配 付
試 験 終 了 後 公 開

平成30年度技能検定

2級ガラス用フィルム施工学科試験問題

(建築フィルム作業)

1. 試験時間 1時間10分
2. 問題数 50題 (A群 25題、B群 25題)
3. 注意事項
 - (1) 係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
 - (2) 答案用紙には、級別、受検番号及び氏名を必ず記入してください。
 - (3) 係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。問題は、A群（真偽法）とB群（多肢択一法）とに分かれています。
 - (4) 試験開始の合図で始めてください。
 - (5) 解答は、答案用紙の解答欄に記入することとし、解答の方法は次のとおりです。
 - イ A群の問題（真偽法）は、一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断し、正しいと思うものには「○」を、誤っていると思うものには「×」を記入してください。
 - ロ B群の問題（多肢択一法）は、正解と思うものを一つだけ選んで、「イ、ロ、ハ又はニ」の記号を記入してください。二つ以上記入した場合は誤答となります。
 - (6) 電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
 - (7) 携帯電話等は、使用してはいけません。
 - (8) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問には答えられません。
 - (9) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
 - (10) 試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
 - (11) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
 - (12) 本試験問題の解答に当たり適用すべき法令、規格等は、2018年4月1日現在で施行されている内容に基づくものとします。

2級 ガラス用フィルム施工(建築フィルム作業)学科問題

真偽法

- 問題 1 太陽の光は電磁波の一種で、波としての性質だけではなく粒子としての性質を持っている。
- 問題 2 日本工業規格(JIS)の建築窓ガラス用フィルムによれば、衝撃破壊対応ガラス飛散防止性能試験は、地震などによる窓枠の歪みによるガラスの破壊を想定した試験である。
- 問題 3 日本工業規格(JIS)の建築窓ガラス用フィルムによれば、ガラス貫通防止フィルムのガラスの貫通防止性能は、衝撃体の落下高さにより2段階に区分されている。
- 問題 4 日射調整フィルムの遮蔽係数は、フィルムの色の濃淡を表す係数である。
- 問題 5 日射調整フィルムにおいて、フィルム基材に設けられた金属層には、日射及び遠赤外線を反射する機能がある。
- 問題 6 建築窓ガラス用フィルムにおいて、基材フィルムに使用されているポリエステルフィルムは、Tダイ法による2軸延伸法によって作られている。
- 問題 7 建築窓ガラス用フィルムの剥離フィルムには、粘着層から剥がれやすいようにポリエステル樹脂が塗布されている。
- 問題 8 作業員の移動手段として、建設用リフトの搬器を使用してもよい。
- 問題 9 労働安全衛生法関係法令によれば、ゴンドラの操作は、特別教育を受講した者でなければ行ってはならない。
- 問題 10 現場に搬入するロールものの建築窓ガラス用フィルムは、原則として、毎日持込み、持ち帰るようにするのがよい。
- 問題 11 建築窓ガラスフィルム工事の段取りでは、フィルムの選定やガラスの採寸以外に、サッシの汚れや損傷状態等についても事前に点検する必要がある。
- 問題 12 建築窓ガラスフィルム工事に使用するスキージーは、施工用と清掃用には同じものを共用する。
- 問題 13 建築窓ガラスフィルム工事に使用するマスキングテープには、紙製のものが適している。
- 問題 14 現場など埃の多い場所においては、施工前の建築窓ガラスフィルムには、ビニルシートなどをかぶせておく必要がある。
- 問題 15 建築窓ガラスフィルム工事において、フィルム幅よりも大きいガラスにフィルムを貼る工法には、突き付け貼り工法と重ね切り工法がある。

- 問題 16 スキージーでフィルムを圧着する場合は、フィルム面に施工液を噴霧する。
- 問題 17 建築窓ガラスフィルム工事において、施工前のサッシや窓ガラスの清掃は、ガラスフィルムの貼り付け状態の良否に大きく影響する。
- 問題 18 建築窓ガラスフィルム工事後は、傷や汚れを受けないように注意書きをフィルムの表面に貼っておくとよい。
- 問題 19 建築工事のうち、仕上げ工事は建築物の主要構造部である壁や屋根などを構築する工事である。
- 問題 20 建築窓ガラスフィルムの改修工事において、フィルムを剥がした後は、ガラス面にフィルムの粘着剤が残ることはない。
- 問題 21 板ガラスの熱割れの主な原因は、ガラスとサッシとの温度差である。
- 問題 22 日本工業規格（JIS）のサッシによれば、サッシの性能のうち耐風圧性だけが等級別に区分されている。
- 問題 23 建具キープランは、建具表に示された建具の形状・寸法・材質・仕様等をまとめて示したものである。
- 問題 24 住宅の品質確保の促進等に関する法律（品確法）に基づく性能表示制度では、評価して表示することが定められている性能項目の一つに防犯性の性能がある。
- 問題 25 建築窓ガラスフィルム工事では、長袖の作業着を着用しなければならない。

多肢択一法

- 問題 1 文中の () 内に当てはまる数値として、適切なものはどれか。
光の波長を示す単位として用いられるnm(ナノメートル)は、 μm (マイクロメートル)の()である。
- イ 1/10 (十分の一)
 - ロ 1/100 (百分の一)
 - ハ 1/1000 (千分の一)
 - ニ 1/1000000 (百万分の一)
- 問題 2 日本工業規格(JIS)の建築窓ガラス用フィルムによれば、フィルムの一般的品質として、規定されていないものはどれか。
- イ ガラスを汚損又は腐食してはならない。
 - ロ フィルム透視に差し支えるような汚れ、泡、脈理などがあってはならない。
 - ハ 不燃性能を有していなければならない。
 - ニ ガラスに均一に貼り付けることができなければならない。
- 問題 3 建築窓ガラス用フィルムに関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ 低放射フィルムは、内貼り用フィルムのみである。
 - ロ 低放射フィルムは、断熱性の向上を目的としている。
 - ハ 日射調整フィルムは、主に目隠しを目的としている。
 - ニ ガラス貫通防止フィルムは、主に防犯を目的としている。
- 問題 4 日本工業規格 (JIS) の建築窓ガラス用フィルムによれば、ガラス飛散防止フィルムに関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ 衝撃破壊対応のものと層間変位破壊対応のものが区分されている。
 - ロ 内貼り用と外貼り用がある。
 - ハ 層間変位試験における飛散防止率は、95%以上である。
 - ニ ガラス飛散防止フィルムの可視光線透過率は、60%以上でなければならない。
- 問題 5 建築窓ガラス用フィルムに関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ 日射調整フィルムの基材フィルムの厚さは、25~50 μm である。
 - ロ ハードコート厚さは、2~5 μm である。
 - ハ 粘着層の厚さは、35~60 μm である。
 - ニ 一般に、ガラス貫通防止フィルムは、ガラス飛散防止フィルムよりも厚い。
- 問題 6 建築窓ガラス用フィルムに関する記述として、適切なものはどれか。
- イ フィルムの粘着層には、紫外線吸収剤が添加されている。
 - ロ ガラス貫通防止フィルムの基材フィルムは、単層である。
 - ハ 日射調整フィルムの金属層には、チタンが用いられている。
 - ニ 剥離フィルムは、塩化ビニル樹脂である。

- 問題 7 建築窓ガラス用フィルムを構成するポリエステルフィルムの一般的特性に関する記述として、適切なものはどれか。
- イ アンモニア、強アルカリ性の薬品には侵されない。
 - ロ 耐熱性は、ポリ塩化ビニルと同等である。
 - ハ ポリ塩化ビニルに比べ、透明性、平滑性、光沢性が優れている。
 - ニ ポリ塩化ビニルに比べ、寸法安定性が悪い。
- 問題 8 具体的な熱中症対策として、適切でないものはどれか。
- イ 休息場所を整備する。
 - ロ こまめに水分・塩分を補給する。
 - ハ 透湿性・通気性のよい服装をする。
 - ニ 夏日には作業を行わない。
- 問題 9 文中の()内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。
労働安全衛生法関係法令によれば、移動はしごの幅は、()cm以上とすることと規定されている。
- イ 30
 - ロ 40
 - ハ 50
 - ニ 60
- 問題 10 建築窓ガラスフィルム工事の施工要領書に記載しなければならないものはどれか。
- イ 工事金額
 - ロ 材料
 - ハ 器工具
 - ニ フィルムの保管方法
- 問題 11 建築窓ガラス用フィルムの選定に関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ 日射調整フィルムは、遮蔽係数により選定する。
 - ロ フロート板ガラスへのフィルム施工は、ガラスの熱割れについて検討する。
 - ハ ガラス貫通防止フィルムは、全面貼りとするか部分貼りとするかを検討する。
 - ニ 外貼り用フィルムは、高所作業車や足場などの使用が可能かを検討する。
- 問題 12 建築窓ガラスフィルム工事に使用する器工具と用途の組合せとして、適切でないものはどれか。
- イ スプレー ・ ・ ・ ・ ・ 洗浄液、施工液の噴霧
 - ロ 鋼製巻尺 ・ ・ ・ ・ ・ フィルムの粗切り寸法の測定
 - ハ カッターナイフ ・ ・ ・ フィルムの裁断
 - ニ スキージー ・ ・ ・ ・ ・ ガラス面の強固な汚れの除去
- 問題 13 建築窓ガラスフィルム工事に使用する器工具に関する記述として、適切なものはどれか。
- イ 施工液は、洗浄液よりも中性洗剤の濃度がやや濃いものを使用する。
 - ロ 三角定規は、所定の隙間を確保しながらフィルムを裁断するときに使用する。
 - ハ ペーパータオルは、スクレーパーの刃先を保護するのに使用する。
 - ニ 清掃用スキージーは、プラスチック製で幅50～100mm程度のものを使用する。

- 問題 14 建築窓ガラス用フィルムの保管に関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ 室内であれば、直射日光が当たる所でもよい。
 - ロ 高温になる所には保管しない。
 - ハ 箱から出したフィルムは、床に直接置かない。
 - ニ 湿度の高い所には保管しない。
- 問題 15 建築窓ガラスフィルム工事における1枚貼り工法に関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ フィルムを貼り付ける場合、施工液は、ガラス面とフィルムの粘着面に噴霧する。
 - ロ 3辺カット法の場合、フィルムの一辺をカットラインに合わせる。
 - ハ フィルムは、窓ガラスの外縁部に隙間をあげないように密着させて、カッターで裁断する。
 - ニ フィルムの表面に施工液を噴霧し、その4辺の隙間が均一になるようにフィルムを圧着する。
- 問題 16 建築窓ガラスフィルムの突き付け貼り工法に関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ フィルムの突き付け位置は、窓ガラスの中央とする。
 - ロ 先貼りフィルムは、突き付け位置の目印に合わせて仮止めする。
 - ハ 後貼りフィルムを先貼りフィルムに合わせて仮止めするときの隙間は、1.5mmとする。
 - ニ フィルムの突き付け部は、ずれないようにスキージーで圧着する。
- 問題 17 建築窓ガラスフィルム工事後の養生に関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ 日射調整フィルムの養生期間は、夏期は1~2週間である。
 - ロ ガラス飛散防止フィルムの養生期間は、冬期は1ヶ月程度要することがある。
 - ハ ガラス貫通防止フィルムの養生期間は、夏期は3ヶ月以上である。
 - ニ フィルム面に傷、汚れなどを生じるおそれがある場合は、養生する必要がある。
- 問題 18 建築窓ガラスフィルム工事後、水分の乾燥が遅い場合の処置として、適切なものはどれか。
- イ 空調設備などを作動させて、室内の空気を循環させる。
 - ロ 針などでフィルムに小さい穴をあける。
 - ハ ドライヤーでフィルムを加熱する。
 - ニ 再度、スキージーで圧着し、水分を抜く。
- 問題 19 鉄筋コンクリート造の略称として、適切なものはどれか。
- イ SRC造
 - ロ RC造
 - ハ S造
 - ニ CB造
- 問題 20 建築窓ガラスフィルムの改修工事の手順として、適切なものはどれか。
- イ フィルムの加湿 → 養生 → フィルムの切断 → フィルムの剥がし
 - ロ フィルムの切断 → フィルムの加湿 → 養生 → フィルムの剥がし
 - ハ フィルムの切断 → 養生 → フィルムの加湿 → フィルムの剥がし
 - ニ 養生 → フィルムの加湿 → フィルムの切断 → フィルムの剥がし

問題 21 合わせガラスの材料板ガラスとして、適切でないものはどれか。

- イ 網入板ガラス
- ロ 熱線吸収板ガラス
- ハ 熱線反射ガラス
- ニ 低放射ガラス

問題 22 文中の()内に当てはまる数字として、適切なものはどれか。

日本工業規格 (JIS) によれば、サッシの耐風圧性は最高圧力により () の等級に区分されている。

- イ 4
- ロ 5
- ハ 6
- ニ 7

問題 23 日本工業規格(JIS)の建築製図通則によれば、下図の平面表示記号が表すものはどれか。

- イ 出入口一般
- ロ 両開きとびら
- ハ 回転窓
- ニ すべり出し窓



問題 24 防犯性能試験に合格したフィルム製品を、定められた条件で施工した窓ガラスに貼られるマークはどれか。

- イ JASマーク
- ロ JISマーク
- ハ CPマーク
- ニ PSEマーク

問題 25 安全帯を使用するときの留意点として適切でないものはどれか。

- イ 安全帯のベルトは、できる限り腰骨の近くで、足脚の方へ抜けない位置で締め付ける。
- ロ バックルのベルト通しは、バックルの刻印順に従ってセットする。
- ハ D環は、できる限り身体の前側にくるように装置する。
- ニ ドライバーなどをベルトに刀指ししないようにする。

平成30年度技能検定
ガラス用フィルム施工学科試験正解表

級別	2 級
----	-----

作業名	建築フィルム作業
-----	----------

A 群 (真偽法)	
問題番号	正 解
1	○
2	×
3	○
4	×
5	○
6	○
7	×
8	×
9	○
10	○
11	○
12	×
13	○
14	○
15	○
16	○
17	○
18	×
19	×
20	×
21	○
22	×
23	×
24	○
25	○

B 群 (多肢択一法)	
問題番号	正 解
1	ハ
2	ハ
3	ハ
4	ニ
5	ハ
6	イ
7	ハ
8	ニ
9	イ
10	□
11	ハ
12	ニ
13	□
14	イ
15	ハ
16	ハ
17	ハ
18	イ
19	□
20	ニ
21	ニ
22	ニ
23	□
24	ハ
25	ハ